有田市市制六〇周年記念

特別展

小説「有田川」の世界

入館 無料

会期：平成28年 10月1日(土)～11月27日(日)

※開館時間：9時30分～17時（入館は16時30分まで）　休館日：毎週火曜日

記念講演

10月15日(土)13:30～
「有田川とともに歩んだ人々」……有田市文化協会副会長　成川満先生

10月22日(土)13:30～
「小説「有田川」の世界」……有田市郷土資料館館長　寺西貞弘

11月19日(土)13:30～
「小説「有田川」にみえる神社仏閣」……有田市郷土資料館学芸員　木谷智史

※10月1日（土）13：00～　東洋文化研究家　Alex kerr（アレックス・カー）氏による講演会開催！（文化福祉センター大会議室にて　担当：経営企画課）

後援：有田市文化協会・NHK和歌山放送局

有田市郷土資料館

ＪＲきのくに線箕島駅　南へ徒歩５分
和歌山県有田市箕島27　TEL0737-82-3221

小説 有田川

文豪有吉佐和子の小説「有田川」は、川守千代の生涯を縦糸に、近代有田の歩みを克明に語っています。そこには、有田川のもたらす恵みと、怒り狂って洪水をもたらす試練があります。有田川の恵みと試練を、千代と同様に私たちは受け入れながら日々の営みを続けてきました。「有田川」の主人公である千代は、有田川のもたらす恵みに感謝しつつも、その試練に決して負けることがありませんでした。その力強い生き方に、今の有田を生きる私たちは学ばなくてはならないでしょう。

最初に、小説「有田川」の創作にかかわった有田の人々の動きをみます。そして、有田川のもたらす試練に、千代が耐えることができたのは、彼女が有田の特産品である蜜柑を愛し続けたことにあります。有田の蜜柑の素晴らしさを、蜜柑を描いた絵画や、文献によってご覧いただきます。今も全国に誇る有田蜜柑の素晴らしさを確認いただくことによって、千代の不屈の精神をご理解いただきます。

次に、「有田川」の主な舞台となった場所を、詳しくご覧いただきます。千代が、有田川の水害で流れ着いた宮原・滝川原の浄念寺、千代が義妹の晴れ姿を陰ながら眺めた得生寺、そして千代が生涯の伴侶となる貫太と参詣を約束した須佐神社、いずれも有田の人々にはなじみの深い名所です。その名所が小説「有田川」の舞台になって、全国の人々に知られているのです。それらの名所の歴史を紹介します。

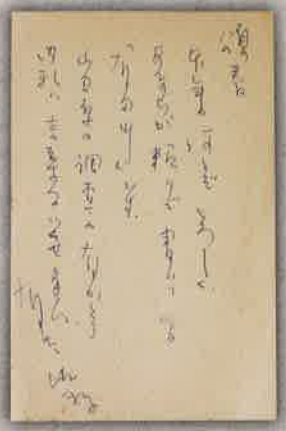
最後に、小説「有田川」に描かれた近代有田の歩みをご覧いただきます。千代は、有田川の洪水で遥か上流から、御霊（有田川町）に流れ着きました。それは、明治22年（1889）のことでした。千代と貫太が結ばれる直前には、貫太が命を懸けて紀勢線箕島駅開業を、県庁に訴えました。昭和28年（1953）の有田川水害で、打ちひしがれた人々を、千代は「山があるさかい有田は大丈夫なんや、（中略）今年もまたええ蜜柑作りなあ」と若者を鼓舞しました。これら小説「有田川」に描かれた有田の歴史を再確認します。

Ⅰ 小説「有田川」と有田の人々

小説「有田川」は、雑誌『日本』の昭和38年1月号～12月号に連載され、同年11月に講談社から単行本として出版されました。その創作過程で、有田の人々がどのようにかかわったかをご覧いただきます。

主な出陳資料

＊有吉佐和子葉書（個人蔵）
＊雑誌『日本』グラビア「有吉佐和子有田川に立つ」（日本近代文学館蔵）
＊有田川取材写真（個人蔵）



有吉佐和子葉書
和歌山の取材協力者に宛てた自筆の年賀状

Ⅱ 千代の愛した有田蜜柑

千代は、その生涯を蜜柑作りに捧げました。千代が愛した有田蜜柑は、江戸時代から全国的にも有名でした。千代が愛した有田蜜柑が、どのように人々に愛されていたかを、絵画資料や文献資料によって確認します。

主な出陳資料

＊野呂介石筆有田橘山図（和歌山県立博物館蔵）
＊紀伊名所図会後編二巻（館蔵）
＊錦絵紀伊国蜜柑山畑之図（個人蔵）

野呂介石筆有田橘山図
近世三大文人画家の一人が描いた有田の蜜柑山の図

Ⅲ 小説「有田川」の舞台

千代は、明治22年（1892）に有田川の氾濫によって、上流から御霊（有田川町）に流れ着きます。その後、又氾濫によって宮原滝川原の浄念寺に流され、そこで蜜柑作りに従事します。その日々の中で、得生寺・須佐神社の祭礼を見ています。「有田川」の舞台となったそれらの名所とその宝物をご覧いただきます。

主な出陳資料

＊聖徳太子孝養像（滝川原・浄念寺蔵）
＊中将姫像（糸我中番・得生寺）
＊懸鯛の白木の櫃（千田・須佐神社）

中将姫像
糸我の得生寺の地に隠棲したと伝えられる中将姫の坐像。貞享3年（1686）の作

Ⅳ 小説「有田川」とともに

小説「有田川」では、明治22年の有田川水害から、昭和28年（1953）の水害を経た昭和34年までの千代の生涯が語られています。それは、箕島駅の開業や、息子を戦地に送るなど、この地域に暮らす誰もが味わった経験です。千代の生涯を通して、この地域の近代の歩みを再確認します。

主な出陳資料

＊明治22年有田川水害記念碑拓本（館蔵）
＊大正13年日本交通分県地図和歌山県（和歌山市立博物館蔵）
＊箕島国民学校沿革史（有田市立箕島小学校蔵）

箕島国民学校沿革史
和歌山への進駐軍進出が記録されている